



学校便り

だしゅ

自主・向学・協調・練磨

錦江町立田代中学校

令和5年11月29日発行

合い言葉 **やればできる**

自分の道は自分で切り開く

校長 土岐 邦寿

この時期になると、中学三年生は心穏やかではありません。実力テストが終わり、その結果を基に三者相談が始まり、進路先を決めていかなければならないからです。中学校生活の最後には高校入試という大きな試練があります。全校朝会でも話をしましたが、小学校から中学校に進学するときと中学校から高等学校へ進学するときの大きな違いは入試の有無です。小学6年の時は深く考えなくても地元の公立中学校に進学できます。中学3年の時は好きな高校を選択できますが、入るためのテストがあります。長い人生の中において初めての大きな試練となります。11月末に三者相談もありました。家族でしっかりと話し合っただけで進むべき道を選んでほしいと思います。

私自身三年担任や進路指導の係を数多くやってきたので、入試に関わるエピソードはたくさんあります。その一つを紹介します。対策をしなかったばかりに入試当日大変な目に遭ったという話です。その教え子は、歯医者が大嫌いで、むし歯があるにもかかわらず、治療したことがないというツワモノでした。「歯医者に行って治療した方がいいよ」と勧めてみても、「今まで痛くなかったことがないから大丈夫」と頑なに拒んでいました。事件は入試前日におきました。歯がうずき始め、頬が腫れ上がったのです。急いで歯医者に駆け込みましたが、処置するのにだいぶかかりました。次の日の受験は痛み止めを飲みながら受けることになりました。この例は特殊ではなく、その後、別な学校の二人の教え子も受験前日におし歯が痛み出し、病院に行きました。この話を歯科医にしたことがあります。そうしたら、「人は極度の緊張に入ると神経が過敏になり、いつもなら気づかないところでも、反応してしまうことがある。今回は受験という経験したことのない場が明日に迫ったことで緊張が高まり、歯の神経が過敏になったのだと思います。」と話してくださいました。受験を控えた3年生、おし歯そのままにしていますよね？もちろん、1・2年生の皆さんも早いうちにおし歯治療をしておくことをおすすめします。自分の歯は自分で管理するしかないのです。

第二土曜の日、「先輩に学ぶ」の時間で高校に行っている先輩たちの体験談や学校生活について話をしてもらいました。3人の先輩プラス1人のビデオ参加で4校の様子を聞くことができました。特に3年生の心には強く響いたらしく「やる気スイッチが入った」「本気に取り組む気になった」「来年、希望した高校の制服を着て、この説明会で高校の話の後輩にしたい。」と頼もしいコメントがいっぱいありました。自分の進むべき道は自分で切り開くしかありません。大変な思いをするかもしれませんが、

試練を乗り越えた先に、新しい未来が待っています。大きな山を乗り越えることを期待しています。

